

2026年4月号 Vol. 87 (2026年4月1日発行)

せんしゆん



ISO9001:2015認証取得
日本医療機能評価(3rdG:Ver.2.0)認定病院

<https://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索

発行責任者：菊地 孝三



吉峯寺にて桜越しの佳景(京都市西京区)

理 念 (3つの使命)

1. 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
2. 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
3. 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

基本方針 (5つの志)

1. 優しい心を基本とする。
2. 医療と介護の相互充実に基本とする。
3. 疾病・障害を一体的に把握し、総合的な医療・介護サービスの提供を基本とする。
4. 良好な療養環境の維持並びに向上を目指す看護・介護を基本とする。
5. 互いの立場を理解し、尊重しあう職場づくりを基本とする。

医療法人社団 千春会

さらなる医療と介護の融合をめざして

2026年春のご挨拶

千春会病院 院長 藤原 仁史



あたたかな春の季節がやってまいりました。千春会の理念を胸に刻み、新しく仲間となるスタッフとともに、今年も地域に貢献する私たちであり続けたいと思います。

桜の花が咲きほこる日本の各地ですが、ほんのひと月程前までは、冬季オリンピック、パラリンピックでの日本の活躍が連日報じられておりました。しかし、4年前の北京冬季オリンピックの直後にはウクライナへのロシアの侵攻が始まり、いまだに戦闘は続いています。そして、今回のミラノ・コルティナオリンピックの後にはイランへのイスラエル・アメリカの攻撃が始まりました。イランによる周辺国への反撃もみられますので、世界の交通・貿易・経済への影響がまだまだ計り知れない情勢です。軽々に述べる内容ではないのですが、早期の終結が心より望まれます。

さて、安心・安全が第一の医療・介護領域において、令和7年の千春会の新しい事業について振り返ります。介護においては1月に京都市左京区にオープンしたデイサービス岡崎（定員75名）が少しずつ地域に根をはりつつあります。9月には吹田市岸辺のデイケアに関して、それまでは定員70名の通所事業所でしたが、機能訓練特化型のデイケアを新設・拡大して、定員250名と大きくなりました。まだ需要に供給が追い付いていない吹田市においても、良質なサービスを十分に提供し続けていく所存です。

病院では昨年6月には消化器内視鏡診断のAI支援システム、「EndoBRAIN-EYE、EndoBRAIN-X」を下部内視鏡検査に導入して、4人の内視鏡専門医が日常診療に活用しています。現状では保険点数としての評価はまだまだ微々たるものですが、このAI内視鏡を導入することで、医療の質を高め、充実させていく努力を続けてまいります。

大きな節目となった前回の令和6年の診療報酬・介護報酬同時改定は、結果として医療機関にとって大変厳しいものとなりました。その環境の中で、それまで急性期入院基本料1を算定していた

当院は、菊地孝三理事長の号令のもと、2024年6月に全60床を地域包括医療病棟に転換致しました。「地域のかかりつけ病院」として必要な機能をこれまで充実させてきた当院の方向性がまさに一致した、新しいこれからの病棟機能と考えたからです。

今回の診療報酬改定では、2040年を見据えた「急性期・高度急性期入院医療」と「包括期・慢性期入院医療」の見直しによる、医療機関の更なる明確な機能分化が求められ、医療機関と介護老人保健施設や高齢者の暮らす入所施設などとの協力体制の確立、リハビリ・栄養管理・口腔管理などの高齢者の生活を支えるケアの推進などが改定のポイントとして提示されています。

当院のような包括期を中心に入院医療を提供する医療機関においては、地域の高齢者救急をしっかりと受入れ、良質な医療を提供して、速やかに在宅生活へと戻るための支援と多職種による地域連携が重要であると考えております。さらに「治し、支える医療」を提供していく一方で、専門的な整形外科領域の良質な治療（人工股関節置換術（THA）、人工膝関節置換術（TKA）、自らの自然治癒力を用いた再生医療など）の提供も、地域への貢献であると確信しています。

身体的拘束最小化に向けた病院全体の取り組みについても、当院では7年前から身体拘束廃止委員会を立ち上げて地道に活動を続けることで、身体拘束率も1～2%程度と低減させてきました。今回の診療報酬改定ではこの取り組みが入院基本料に必要な基準となり、体制を取るのみならず実績も伴わないと減算対象とされるようになりました。引き続き、当院では身体拘束率0%を目指して努力して参りたいと存じます。

今年もかかりつけ病院として、軽症から中等症の高齢者救急を受け入れて、治す医療、治し支える医療を提供しながら、在宅生活を支える介護サービスもこれまで以上に充実させてまいります。そして多職種が関わることで「医療と介護の融合」という言葉を実現すべく努力してまいります。

本年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

学会発表

第52回 日本股関節学会学術集会 in 下関

藤田 裕先生(股関節再建センター長)、金村 卓副院長、柴田勝博Dr
リハビリ科 福留 良副主任、太田海陽PT、塩見和真PT、有田悠真PT

THA後の退院前動作検定における検者間信頼性について 第2報

当院では、人工股関節全置換術(THA)が藤田センター長の執刀で2022年から開始され、100件超の症例は、非常に良好な経過となっています。

リハビリ科セラピストによる術後リハビリの重要性は高く、様々な視点からの研究や評価導入など、患者さんの回復の一助となっています。下関での学会発表では、退院前の動作検定の役割と目的に置いての有用性を発表させていただきました。日常のリハビリ提供の中で、課題意識を持つての研究を通じ、さらに良質な医療提供に努めてまいります。



関係先生方はじめ、藤田センター長、学会発表者たち



ISO 第三者評価受審

「不適合なし」

今年も千春会病院はじめ各事業所にてISO更新審査を受審し、不適合は認められませんでした。その上で、より良質を目指すためのアドバイス等がなされました。

サーベヤーの方々からは「他施設で受入れを断られたケースについても受け入れ実績があり、利用者・家族だけでなく、ケアマネジャーからも評価を得ており、地域の信頼につながっている。」「ダブルチェックが形骸化することなく運用されており、スタッフ一人ひとりの意識の高さがうかがえた。」といった講評を頂き、日常の中で地域に信頼され得るサービス提供はじめ事故や間違いを防ぐための積み重ねなどが高評価となりました。

全体講評では、理事長、院長はじめ法人各部署の責任者が参加し評価を受けて、現場にフィードバックしています。これからも法人全体で、さらなる向上を目指して取り組んでまいります。



理事長、院長、副理事長はじめ、サーベヤーの講評を聞く法人責任者

ご報告 2025年度 千春会病院 外来患者様 満足度調査結果

外来患者様に対して満足度調査を実施いたしました。

調査期間

2025年5月19日(月)~6月21日(土)

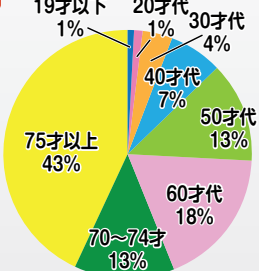
調査場所

千春会病院 外来患者様

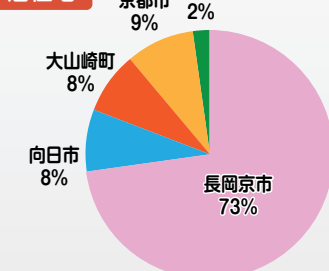
回答率

95.5%

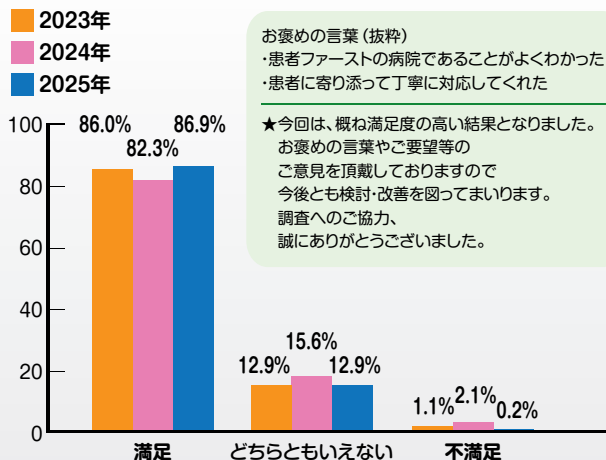
年齢



居住地



満足度3年間の推移





受講生の蘇生対応を指導中の講師陣



高性能ボディを使っでのチームでの蘇生

千春会病院主催の「ICLS」という「蘇生」のためのトレーニングコースを開催いたしました。

病院はもちろん、介護施設や事務所、日常生活の中で突然、救急対応を余儀なくされることがあります。そのような時に慌てず、迅速に適切な行動と



処置を行う、蘇生のための実践的なレクチャーです。受講資格者は、医師、看護師、セラピスト、介護職員、事務職など幅広い職種が対象となっており、今回も乙訓消防の救急隊員の方が参加され、修了後に日本救急医学会より「コース認定」がなされました。



まず、スライドで初動の大切さを再確認し、さらに小グループに分かれ、



(中央)吉川先生、金村副院長と受講生の皆さん

BLS(1次救命処置)を全員ができるまで実施しました。看護師や救急隊員は救命処置の知識があり、落ち着いた対応が出来ますが、金村副院長、吉川徹二先生(京都鞍馬口医療センター)、佐伯洋輔先生(京都第二赤十字病院)、前島加奈先生(大阪医科薬科大学病院)をはじめとする講師陣からは、より細やかな指摘があり、受講者は人形を使用しての挿管介助やAED操作が全員確実にできるよう交代で取り組みます。

午後からは、声や反応が確認できる高性能ボディ(レサシアンシミュレーター)を使用して、大きな声で対応支援者を呼ぶ、交代で胸骨圧迫(心臓マッサージ)を行うなど実践さながらの状況を想定し、「蘇生チーム」として対応するなど、臨場感あふれる研修で自信と知識を得る大きな学びになりました。

ICLS(immediate Cardiac Life Support)とは

医療従事者のための蘇生トレーニングコース。

救急性の高い病態のうちに、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としている。

(日本救急医学会 ホームページより)



充実の講師陣 右より5番目(中央)の吉川先生、左端(金村副院長)

すくすく育つ子どもたち



季節の行事&生活発表会



小規模保育園 **アトリエ保育園** 0歳～2歳 定員19名 保育・高齢複合施設 西山天王山

今年も可愛いお雛様が飾られたアトリエ保育園。0歳～2歳の子どもたちは、みんなで楽しく、季節感あふれる「ひな祭り」を楽しみました。着物を着て、お内裏さま、お雛さまに扮した先生のお話に花見団子の3兄弟が加わっての楽しい踊りが始まり、子どもたちも嬉しそう。



おひなまつりのイベントを楽しむ子どもたち

昨年とは、また違う内容で子どもたちに楽しんでもらおうと先生方が様々に工夫を凝らしたイベントに子どもたちも大喜びです。

おやつは各部屋で牛乳とひなあられを一緒に頂いたり、笑顔いっぱい季節の行事を満喫しました。



先生たちの楽しいダンス



きらら保育園 0歳～5歳 定員60名 保育・高齢複合施設 友岡



創作劇を熟演する子どもたち

毎年開催している「生活発表会」では子どもたちの成長に驚かされます。今年の5歳児さんは、自分たちで演じる劇をストーリーから配役まで、先生と友達とで時間をかけて作り上げた素敵な劇です。

縄跳びの回数や腕相撲での勝ちなど、自分たちが日々取り組んで来た事をミッションにしようと考えたアイデア。そして何より素晴らしいのは、指定されたミッション

をクリアして人形の「さくらちゃん」を救出した後、黒猫軍団といがみ合うのではなく、「一緒に大事にしていこう」という前向きで優しい提案。心の美しい子どもたちに成長してくれたことは大きな喜びです。



黒猫軍団とさくら組はずっと仲良く楽しく過ごしました

子どもたちが考えたストーリー

子どもたちが大切にしている「さくらちゃん」というお人形が、黒猫軍団にさらわれます。たくさんのミッションをクリアしたら返してあげると言われ、子どもたちは「さくらちゃん」を救うためのミッションにチャレンジ。次々とクリアして、ついに「さくらちゃん」を助け出します。「さくらちゃん」を奪った黒猫軍団でしたが、「さくらちゃん」がいなくなり、寂しくて仕方ありません。そこで、子どもたちは「これからは、さくらちゃんを奪ったりしなくても、一緒に遊ぼうね」と黒猫軍団と仲良く「さくらちゃん」を大切にしていきました。

長岡京市総合支援生活センターからの依頼を受け 谷中統括主任が講演「自分サポーター養成講座」

長岡京市の「介護予防日常生活サポーター活動支援事業」として、栄養科統括主任が講師を務めました。城の里寿会の地域の方々を対象に、いつまでも健康に暮らし続けられるための栄養について講演。「フレイル」予防のためには、口から食べることや人とのつながりを持つことが大切であることを認識していただき、ご自身でどうすれば栄養が摂れるのかなど、具体例を含めてスライドと資料で分かりやすくご説明させていただきました。

高齢になると食べる意欲や調理がおっくうになる等の傾向がありますが、しっかり栄養が摂れるよう、ご自宅でもすぐに取り組める食事内容の改善例などを提示いたしました。



メモをとり熱心に聴く 地域の皆さん

小規模多機能型居宅介護 あさつゆ・のどか・桃の木 3事業所合同説明会 開催 住み慣れた地域でいつまでも暮らしていただけるように…



事業所の責任者による説明

介護老人保健施設春風の地域交流スペースで、「小規模多機能型居宅介護」のサービスについて地域の方々に向けた相談会を開催させていただきました。こちらは文字通り、施設規模は小規模ですが、①通い②泊り③訪問といったサービスを必要に応じて自由に選択できる多機能な介護サービスです。

日頃は、デイサービスを利用いただきながら、家族さんのリフレッシュや冠婚葬祭、旅行等でショートステイを利用したり、また感染症にかかった場合の対策でご自宅での介護を希望される場合には、馴染みのスタッフが訪れて「訪問介護」に変更したり、カスタマイズできるのが特徴です。

施設責任者の説明会には、多くの方がお越し下さり「名称がわかりにくいので、サービスが見えませんでした」と、大変良くわかりました」と、施設責任者からの説明に納得された様子でした。

柔軟な対応のサービスをぜひ活用して、地域での介護生活を安心して過ごしていただきたいと思っております。

今号表紙は、平安中期の開山、古刹の「善峯寺(よしみねでら)」。「樹齢600年超の見事な枝ぶりの“遊龍の松”、春に多くの桜咲く境内には桂昌院お手植えの枝垂桜、梅雨に華やぐあじさいの花、彩る秋の紅葉、静けさ極まる山間の雪」と、山に位置する広大な善峯寺には、四季折々の自然豊かな美しい光景が日常です。山中高所の寺に向かい坂を上り、階段を重ねるごとに下界の喧騒から離れる「無」の心地良さ。

「ご本尊：千手観音」様のおわします地に立てば、美しくも雄大な光景が眼下に広がり「佳景」と呼ぶにふさわしい眺望です。

千年の春を重ねても新たに芽吹く古刹の春。千春会も幾たび春を重ねようとも、常に「志」を新たに刻み、はるか彼方の未来を見据え、地域に貢献してまいります。多くの人や地域が活き活き輝く、まさに「佳景」の広がりのように…(弘)

表紙写真：元・乙訓医師会会長 齊ノ内先生ご提供

患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院

千春会病院

〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26
TEL (075)954-2175 FAX (075)955-4615